三井住友信託銀行
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK

Daily Report（号外）

～FOMCの結果について～

概要

FRB（米連邦準備制度理事会）は、1月31-2月1日に開いたFOMC（米連邦公開市場委員会）で、フェデラルファンド金利（FF金利）の誘導目標を4.25-4.50%から4.50-4.75%へ、0.25%引上げることを決定しました。

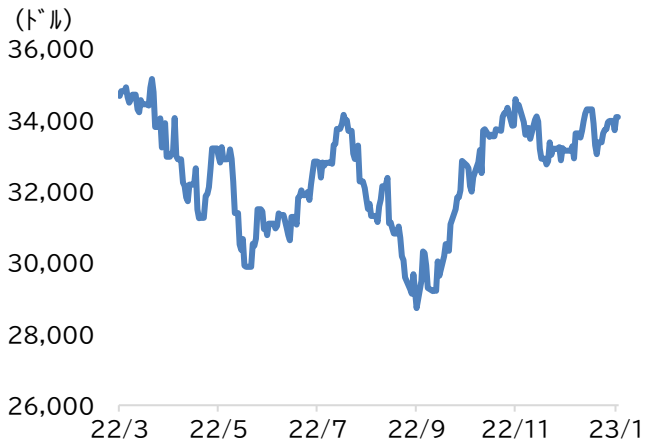
声明文では、インフレ率に関して前回の「インフレはパンデミックに関連した需給の不均衡、食品・エネルギー価格の上昇など広範な物価圧力を反映して高いままにある」から、「幾分和らいだが引続き高止まりしている」に修正されました。また、金融政策の先行きについては「利上げの継続が適切であろうと予想している」というこれまでのガイダンスが維持されました。

パウエル議長は記者会見で、物価情勢に関して財を中心に「ディスインフレのプロセスが開始したと言える」と指摘しつつも、労働市場は非常に強いままであり「サービスインフレの鈍化には労働市場のより良い均衡が必要」との考えを示しました。また、先行きの金融政策については、「利上げを停止する前にあと数回の追加利上げを議論した」と将来の利上げ停止タイミングに言及しつつも、「経済が予想通りの展開となれば、2023年中の利下げは想定しない」とし、市場の一部で台頭している早期利下げ観測を牽制し、従来から貫く金融引締め継続スタンスを保持しました。

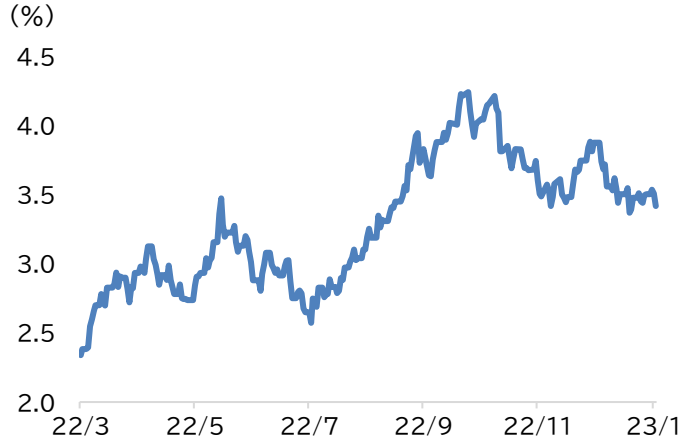
市場の反応

FOMCの結果を受けて、米国市場では株高・金利低下・ドル安となりました。S&P500は、パウエルFRB議長がインフレ抑制の進展に言及したことを好感して前日比+42.61pt高の4119.21ptで終了し、NYダウは概ね横ばいとなりました。米国10年債利回りは同議長が「ディスインフレの初期段階にある」と認めたことが市場参加者にハト派的と受け止められたことから前日より9bp低い3.42%まで低下しました。外国為替市場では声明文発表や記者会見を受けて振れが大きい展開となる中、128円台後半までドル安円高が進行しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



（期間）2022/3/31～2022/2/1、（出所）Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
また、シミュレーション等（前提は資料参照）については結果を確約するものではございません。

評価及び今後の見通し

今回のFOMCでは、声明文において利上げ継続に関する文言の修正が注目点の一つとして挙がっていましたが、主要な文言が維持されたことで当局の利上げ継続スタンスが改めて示されました。それでも、声明文の一部ではインフレが幾分和らいだことが示され、記者会見でも「ディスインフレのプロセスが始まった」と発言があったことなどを受け、これまでとは異なりインフレ抑制に関する発言に市場が反応して金利低下やドル安が進んだと見ています。

据え置かれた利上げ継続に関するフォワードガイダンスやパウエルFRB議長の発言からすると、次回3月21-22日に開かれるFOMCにおける0.25%の利上げは実行される可能性が極めて高いものの、次々回以降のFOMCで利上げが継続されるかはインフレ関連指標や労働需給に関するデータ次第の様相が強まり始めています。

市場では利上げ停止や利下げ開始タイミングに関する思惑から価格の振れ幅が拡大し易くなるとともに、インフレ抑制が示唆される指標に動きが出てくれば、市場では早期利上げ停止の織り込みが進み、株高・金利低下が進みやすくなると予想します。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
2/2	ECB理事会
3/10	日銀金融政策決定会合
3/21-22	FOMC(米連邦公開市場委員会)

出所:Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではございません。